

プログラム

平成30年6月29日(金)

13:00～13:15 領域代表、領域外評価委員挨拶

祖父江 元 (名古屋大学医学系研究科)
御子柴克彦 (理化学研究所)

A01：脳タンパク質老化と神経回路破綻

司会：祖父江 元・谷内 一彦

13:15～13:40 A01-1 FTLDの病態解明とそれに基づくタウ isoform を標的とした核酸治療薬の開発

祖父江 元 (名古屋大学医学系研究科)

13:40～14:05 A01-2 アストログリオシス・タウ病変選択的なPETプローブの開発

谷内 一彦 (東北大学大学院医学系研究科機能薬理学, 東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター)

14:05～14:47 フラッシュトーク1

14:05～14:12 F1-1 タウを標的したSPECTイメージングプローブの開発

小野 正博 (京都大学大学院薬学研究科)

14:12～14:19 F1-2 アルツハイマー病における神経機能回路の異なる破綻様式

水田恒太郎 (京都大学)

14:19～14:26 F1-3 Dynactin1 によるオートファゴソームとリソソームの融合のメカニズム

足立 弘明 (産業医科大学医学部 神経内科学)

14:26～14:33 F1-4 Rab活性化因子ALS2のターゲットRabの探索とノックアウト細胞株の樹立

福田 光則 (東北大学大学院生命科学研究科 膜輸送機構解析分野)

14:33～14:40 F1-5 細胞外 α シヌクレインとフロチリンの相互作用 — ドパミントランスポーターおよび α シヌクレイン内在化への関与

長谷川隆文 (東北大学大学院医学系研究科 神経・感覚器病態学講座神経内科学分野)

14:40～14:47 F1-6 アフリカメダカからヒトパーキンソン病へ
松井 秀彰 (新潟大学)

14:50～15:00 休 憩

A02：脳タンパク質老化の分子基盤

司会：高島 明彦・久永 眞市

15:00～15:25 A02-1 タウの生理的機能から神経原線維変化形成までを考える
高島 明彦 (学習院大学 理学部 生命科学科)

15:25～16:07 フラッシュトーク2

15:25～15:32 F2-1 マーモセット脳におけるタウのアイソフォームとリン酸化：アルツハイマー病霊長類モデルとなりうるか
久永 眞市 (首都大学東京 理学研究科 生命科学専攻)

15:32～15:39 F2-2 オートファジー関連因子WDR45に変異を伴う脳神経変性疾患 SENDA の病態解明
森下 英晃 (東京大学大学院医学系研究科 分子生物学分野)

15:39～15:46 F2-3 アルツハイマー病関連タンパク質タウの凝集体形成と神経変性の関係
安藤香奈絵 (首都大学東京 大学院理学研究科 生命科学専攻)

15:46～15:53 F2-4 1分子イメージングでタウタンパク質の生理機能に迫る
坂内 博子 (JST・さきがけ1細胞, 理研・CBS)

15:53～16:00 F2-5 タンパク質の老化基盤解析に向けたヒト脳組織染色技術の開発
田井中一貴 (新潟大学脳研究所)

16:00～16:07 F2-6 パーキンソン病患者iPS細胞由来ニューロンを用いた新たなマウスモデルの創出
望月 秀樹 (大阪大学大学院医学系研究科 神経内科学)

16:10～17:10 ポスター閲覧

17:10～ 記念写真、チェックイン

18:00～19:30 夕食、意見交換会

19:30～	新学術領域「脳タンパク質老化と認知症制御」第4回リトリート
	司会：石垣 診祐・前田 純宏
19:30～	1. 講演：Dr.Yadong Huang (University of California, San Francisco)
	2. 講演：岡野 栄之 (慶應義塾大学医学部 生理学教室)

平成30年6月30日(土)

A02：脳タンパク質老化の分子基盤

司会：長谷川 成人・北本 哲之

9:00～ 9:35	A02-2 線維化 α シヌクレインのプリオン様活性とその不活性化 長谷川成人 (東京都医学総合研究所)
	孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病における代表的なプリオンの末梢からの感染実験 北本 哲之 (東北大学大学院医学系研究科 病態神経学分野)

9:35～10:10 フラッシュトーク3

9:35～ 9:42	F3-1 α シヌクレイントランスジェニックと脳内接種による新規パーキンソン病モデルマウスの開発 高橋 良輔 (京都大学大学院医学研究科臨床神経学)
9:42～ 9:49	F3-2 プリオン以外のプリオン病の病原体の同定とその病原性のメカニズムの解明 坂口 末廣 (徳島大学先端酵素学研究所次世代酵素学研究領域神経変性病態学分野)
9:49～ 9:56	F3-3 エタノールアミンおよび25-ヒドロキシコレステロールの抗プリオン活性発現機構の解析 内山 圭司 (徳島大学先端酵素学研究所)
9:56～10:03	F3-4 ALS病因タンパク質FUSの神経細胞間伝播に関する研究 橋本 唯史 (東京大学大学院医学系研究科 神経病理学分野)

10:03～10:10 F3-5 ミスフォールド型タンパク質の経口摂取が生物個体に及ぼす影響
古川 良明 (慶應義塾大学理工学部)

10:10～10:25 休 憩

A02：脳タンパク質老化の分子基盤

司会：小野寺 理 ・ 清水 重臣

10:25～10:50 A02-1 HTRA1 活性低下による脳小血管病の解明
小野寺 理 (新潟大学 脳研究所 神経内科学分野)

10:50～11:32 フラッシュトーク4

10:50～10:57 F4-1 新規オートファジーとタウオパチー
清水 重臣 (東京医科歯科大学 難治疾患研究所)

10:57～11:04 F4-2 慢性的な睡眠障害によりアルツハイマー病モデルマウスのアミロイド
β病理は増悪する
永井 義隆 (大阪大学大学院医学系研究科 神経難病認知症探索治療学,
国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第四部)

11:04～11:11 F4-3 LGII を中心とするシナプス蛋白質ネットワークの老化と認知症の分子
病態
深田 正紀 (生理学研究所)

11:11～11:18 F4-4 タンパク質老化と毒性機序における小胞体カルシウムの役割
濱田 耕造 (理化学研究所)

11:18～11:25 F4-5 Aβによるグルタミン酸受容体動態の異常化とシナプス前終末研究への
展開
田中 洋光 (京都大学大学院理学研究科 生物科学専攻)

11:25～11:32 F4-6 MAPT-R406W 変異が関わる分子病態基盤の解明
坪井 大輔 (名古屋大学大学院 医学系研究科 神経情報薬理学)

11:45～12:45 昼食 / 計画班員会議 / ポスター閲覧

A03：脳タンパク質老化に対する治療法開発

司会：岡野 栄之・佐原 成彦

12:45～13:37	フラッシュトーク5	
12:45～12:55	F5-1	一分子イメージングを用いた、ヒト iPSC 由来神経におけるてんかん様症状の再現、およびタウタンパク質減少効果の確認 前田 純宏（慶應義塾大学 医学部 生理学教室）
12:55～13:02	F5-2	構造生物学および計算化学によるタウ線維の構造と相互作用の解析 山口 芳樹（理化学研究所）
13:02～13:09	F5-3	線維化タウ凝集体形成の培養細胞モデル 松本 弦（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）
13:09～13:16	F5-4	疾患 iPSC 細胞を用いた脳タンパク質老化モデルの構築と治療薬の開発 赤松 和土（順天堂大学大学院医学研究科 ゲノム・再生医療センター）
13:16～13:23	F5-5	疾患特異的 iPSC 細胞由来神経幹細胞移植マウスの神経炎症に関する解析 太田 悦朗（北里大学医療衛生学部免疫学）
13:23～13:30	F5-6	疾患特異的 iPSC 細胞を用いた神経変性疾患の早期病態の解明 岡田 洋平（愛知医科大学医学部内科学講座（神経内科））
13:30～13:37	F5-7	髄鞘化を特異的にイメージングする PET トレーサーの設計と合成 加藤 孝一（国立精神・神経医療研究センター）
13:40～13:50	総括班会議（総合討論）	
13:50	閉会の挨拶	